

平成30年度事業報告書

第1 事業の概要

平成30年度の事業運営に当たっては、全国統一運動の「安心の未来」拡充運動を軸に、将来を見据えた財政の健全化に向けて、一層のコスト低減・節減に努めるとともに、コンプライアンス体制の整備と組織体制の構築に努めた。

事業推進に当たっては、大幅に改正された農業共済制度の周知並びに平成31年1月1日より保険期間がスタートした農業経営収入保険制度の普及を、NOSA I組織を挙げて行った。更に、各事業の引受並びに損害評価の適正実施、効果的な損害防止事業の実施などに努めた。

引受関係では、一部の事業で前年度実績を上回ったものの、全体的には高齢化等による経営規模縮小や廃業・収入保険制度への移行もあり減少したが、園芸施設共済については未加入者推進と継続加入者の完全引受に努めた結果、引受の増加につながった。一方、建物共済においては、東日本大震災以降、総合共済への加入が増加傾向にあるものの、火災共済は解約や総合共済への移行により事業量が減少し、全事業の総共済金額は1兆1,897億円余で前年度対比96.6%となった。

なお、収入保険については、役職員一丸となって制度説明や戸別推進に取り組んだが、初年度ということもあり思うような結果が得られなかった。

一方、被害関係については、台風21・24号により、果樹共済（りんご）と園芸施設共済を中心に被害を受けた。台風以外では、りんごで降霜・降ひょうによる被害、肉用牛等の牛白血病等の事故、記録的猛暑による大豆の生育不良や蚕の病害が発生し、建物共済は、前年度より火災事故の発生が多く支払額は増加した。全事業の支払共済金総額は14億4,833万円余で前年度対比118.8%となり、前年度より支払いは増加したものの、例年と比較すると被害の少ない年度であった。

また、平成30年度で廃止となる無事故農家への無事戻し金の支払いを行うとともに、損害防止事業により損害の未然防止に努めた。

第2 引受・損害評価の実績

(1) 農作物共済関係

(引受)

区分	項目	組合員数	引受面積	引受収量	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
水 稲	一筆方式	18,593	1,438,492.9 ^a	47,128,392 kg	7,048,200,522	16,830,140	△ 9,306,468	7,523,672
	半相殺方式	754	20,196.0	812,675	133,938,571	319,060	△ 173,400	145,660
	全相殺方式	-	-	-	-	-	-	-
	品質方式	174	55,058.5	-	345,387,428	3,782,631	△ 2,380,614	1,402,017
	小計	19,521	1,513,747.4	47,941,067	7,527,526,521	20,931,831	△ 11,860,482	9,071,349
麦	30年産							
	一筆方式	564	352,605.9	9,842,109	955,818,332	7,985,548	4,113,091	12,098,639
	半相殺方式	-	-	-	-	-	-	-
	全相殺方式	-	-	-	-	-	-	-
	災害収入共済方式	319	341,716.2	-	1,849,513,715	36,811,414	8,333,914	45,145,328
小計	883	694,322.1	9,842,109	2,805,332,047	44,796,962	12,447,005	57,243,967	
31年産	一筆方式	439	347,993.7	9,584,527	941,682,108	9,171,827	6,672,335	15,844,162
	半相殺方式	-	-	-	-	-	-	-
	全相殺方式	-	-	-	-	-	-	-
	災害収入共済方式	285	305,237.9	-	1,650,363,158	37,957,150	15,779,915	53,737,065
	小計	724	653,231.6	9,584,527	2,592,045,266	47,128,977	22,452,250	69,581,227

△:納入保険料

※麦31年産については、決算時の引受内容を記入。

○水 稲

- ・前年対比
- ・引受概況

引受組合員数:93.7%・引受面積:98.9%

平成30年産の引受組合員数は19,521人で、前年より1,321人の減少、引受面積は15,137haで前年より176haの減少となった。要因としては、個人農家の作付けから集落営農組織や、農業法人への移行が増えたこと、また農家の高齢化等による作付中止により引受組合員数、引受面積ともに減少となった。

引受方式別では、組合員数割合で一筆方式が全体の95.2%、半相殺方式が3.9%、品質方式が0.9%となった。近年の気象災害による品質低下被害を受け、加入要件を満たす農家等に対し水稻品質方式への移行を推進した。また、青色申告を行っている農家等に対しては収入保険制度を含めた効果的な推進を行った。

○麦

- ・前年対比
- ・引受概況

引受組合員数:89.6%・引受面積:99.3%

平成30年産の引受実組合員数は883人で、前年より103人の減少、引受面積6,943haで前年より51haの減少となった。引受組合員数、引受面積については年産ごとに多少の増減はあるが、概ね同等の組合員数、面積で推移している。引受方式別では、組合員数割合で一筆方式が全体の63.9%、災害収入共済方式が36.1%となった。収穫期の気象災害による品質低下被害の発生が多いことから、加入要件を満たす農家等に対し災害収入共済方式への移行を推進した。また、青色申告を行っている農家等に対しては収入保険制度を含めた効果的な推進を行った。

(被害)

区分	項目	被害組合員数	共済減収量	共済金	$\frac{\text{共済金}}{\text{共済金額}}$	備考
水 稲	一筆方式	人	kg	円	%	
	半相殺方式	147	32,129	4,775,109	0.1	
	全相殺方式	1	33	5,445	0.0	
	品質方式	-	-	-	-	
	小計	40	-	6,860,084	2.0	
麦	一筆方式	188	32,162	11,640,638	0.2	
	半相殺方式	63	27,773	3,136,328	0.3	
	全相殺方式	-	-	-	-	
	災害収入共済方式	129	-	59,146,974	3.2	
	小計	192	27,773	62,283,302	2.2	

○水 稲 ・被害概況

早期栽培において、出穂後の高温による登熟不良が心配されたが、7月下旬から8月下旬において曇雨天により日照不足となり、収穫遅れが発生し、平坦部ではいもち病等の病害が発生した。台風の影響で倒伏したり、登熟が不斉一だったりした場合は、穂発芽、青未熟粒、乳白米の発生が見られた。特に、10月上旬の台風の影響で倒伏状態となり刈取りができず収穫作業が遅れた。平年に比べ、いし等のしし等による獣害が多く発生し、平坦部を中心に穂いもち、イネ編葉枯病、内穎褐変病がやや多く発生した。なお、作柄については、12月10日公表の農林水産統計で作況指数102のやや良となった。

○麦 ・被害概況

播種後の低温、乾燥により出芽に大幅な遅れが生じた。2月下旬以降の気温が高温で推移したため、急速に生育が回復したが、出芽が不斉一であり、ほ場内で生育の不揃いで播種が遅れたほ場ほど穂数が少ない傾向となった。
なお、県技術支援課発表の「平成30年産小麦の作況と麦類の今後の技術対策(6月20日現在)」によると、県平均の作柄概況は「並～やや不良」となった。

(支払)

区分	項目	支払月日	実支払共済金	共済金支払財源					実支払共済金	
				保険金	手持掛金 充当額	法定積立金 充当額	特別積立金 充当額	その他	共済金	共済金
水 稲		平成 年 月 日	円	円	円	円	円	円	%	
		30.12.26～ 31.3.26	11,640,638	0	9,071,349	2,569,289	0	0	100.0	
麦		30.9.7～ 30.12.26	62,283,302	0	57,243,967	5,039,335	0	0	100.0	

(損害防止)

水稲・麦の病虫害防除等の損害防止事業に20,045,634円を使用し、各支所において関係機関と連携し、防除薬剤等を加入者に配布した。
また、伊勢崎支所においては、水稲種もみ温湯消毒機の貸し出しを行い、支所職員及び農協職員の指導により、加入者と職員で水稲種もみの温湯消毒を行った。

(無事戻し金)

- ・水稲無事戻し金として、868人に対し2,136,389円の支払いを行った。
- ・麦無事戻し金として、310人に対し8,883,197円の支払いを行った。

(2) 家畜共済関係

(引受)
旧制度

区分	項目	有資格頭数	事業計画頭数	引受頭数	引受頭数 事業計画頭数	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
		頭	頭	頭	%	千円	円	円	円
乳牛の雌等		64,330	42,254	40,546	96.0	7,272,701	335,228,256	46,680,041	381,908,297
	子牛等		10,706	9,436					
肉用牛等		66,400	21,455	17,981	83.8	3,780,329	29,109,217	2,905,687	32,014,904
	子牛等		5,712	5,004					
種豚		67,940	8,057	5,343	66.3	235,198	408,673	△ 9,776	398,897
肉豚		538,260	65,719	39,868	60.7	305,637	2,311,332	△ 387,407	1,923,925
合計		736,930	137,485	103,738	75.5	11,593,865	367,057,478	49,188,545	416,246,023

△: 納入保険料

区分: 表中記載のほか、包括共済関係で一般馬、個別共済関係で乳用種雄牛・肉用種雄牛・種雄馬の共済目的があるが、引受がないため省略した。

○前年対比 引受頭数: 86.7%

○引受概況 引受頭数は、事業計画に対し33,747頭減の75.5%となった。また、前年対比引受頭数は86.7%であった。共済金額は4億7,880万円増加し、前年対比104.3%となった。

飼養実態調査情報から未加入者を把握し、全戸訪問の実施により農家ニーズに対応した補償内容の加入タイプを推進した。

新制度

・死亡廃用共済

項目 区分	有資格頭数	事業計画頭数	引受頭数	$\frac{\text{引受頭数}}{\text{事業計画頭数}}$	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
搾乳牛	頭	頭	頭	%	千円	円	円	円
育成乳牛	-	-	-	-	-	-	-	-
繁殖用雌牛	-	-	-	-	-	-	-	-
育成・肥育牛	-	-	-	-	-	-	-	-
種豚	-	-	752	-	45,284	9,510	5,909	15,419
合計	-	-	752	-	45,284	9,510	5,909	15,419

区分：表中記載のほか、包括共済関係で繁殖用雌馬、育成・肥育馬、個別共済関係で乳用種種雄牛、肉用種種雄牛、種種馬の共済目的があるが、引受がないため省略した。

・疾病傷害共済

項目 区分	有資格頭数	事業計画頭数	引受頭数	$\frac{\text{引受頭数}}{\text{事業計画頭数}}$	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
乳用牛	頭	頭	頭	%	千円	円	円	円
肉用牛	-	-	-	-	-	-	-	-
種豚	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	-	-	-	-	-	-	-	-

区分：表中記載のほか、包括共済関係で一般馬、個別共済関係で乳用種種雄牛・肉用種種雄牛・種種馬の共済目的があるが、引受がないため省略した。

・肉豚共済

項目 区分	有資格頭数	事業計画頭数	引受頭数	$\frac{\text{引受頭数}}{\text{事業計画頭数}}$	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
肉豚	頭	頭	頭	%	千円	円	円	円
	-	-	7,838	-	60,416	27,912	17,461	45,373

(事故)
旧制度

区分	項目		死 産 事 故		病 傷 事 故	
	死亡頭数	頭	廃用頭数	頭	総頭数	頭
乳牛の雌等	1,690	542		2,232		333,817,681
	372	1		1		24,462
肉用牛等	226	23		249		32,108,002
	180	1		1		2,318
種豚	14	0		14		1,409
肉豚	794	-		794		28,715,236
合計	2,724	565		3,289		10
						26,790
						139,770
						-
						383,014,413

区分:表中記載のほか、包括共済関係で一般馬、個別共済関係で乳用種種雄牛・肉用種種雄牛・種雄馬の共済目的があるが、引受がないため省略した。

○事故概況

死産事故は、頭数前年対比93.5%、病傷事故は、件数前年対比99.8%で減少傾向となった。支払共済金については、死産事故は前年対比107.2%と増加し、病傷事故は同98.6%となりやや減少した。

新制度
・死亡廃用共済

区分	項目	死亡頭数	廃用頭数	総頭数	支払共済金
		頭	頭	頭	円
搾乳牛	牛	-	-	-	-
育成乳牛	牛	-	-	-	-
繁殖用雌牛	牛	-	-	-	-
育成・肥育牛	牛	-	-	-	-
種豚	豚	0	0	0	0
合計		0	0	0	0

区分：表中記載のほか、包括共済関係で繁殖用雌馬・育成・肥育馬、個別共済関係で乳用種雄牛・肉用種雄牛・種雄馬の共済目的があるが、引受がないため省略した。

・疾病傷害共済

区分	項目	件数	支払共済金
		件	円
乳用牛	牛	-	-
肉用牛	牛	-	-
種豚	豚	-	-
合計		-	-

区分：表中記載のほか、包括共済関係で一般馬、個別共済関係で乳用種雄牛・肉用種雄牛・種雄馬の共済目的があるが、引受がないため省略した。

・肉豚共済

区分	項目	死亡頭数	支払共済金
		頭	円
肉豚	豚	0	0

(損害防止)

実施種目	対象頭数又は回数 頭(回)	経費概算	摘要
特定損害防止	342	1,514,720 円	乳牛
一般損害防止	108,095	4,943,021	乳牛38,121頭、肉牛17,451頭、豚52,523頭
講習会、講話会	-	-	

- ・特定損害防止事業については、診療所において周産期疾患を中心に、乳房炎、運動器病、繁殖障害を対象に実施した。
- ・一般損害防止事業については、予防衛生措置のための薬剤等を配布した。

(診療所)

診療所名	職員数	※事業区域		診療件数		損害防止事業			摘要
		有資格頭数	引受頭数	共済事故	事故外	事故低減	特損	経費概算	
中 央 区	人 3	頭	頭	頭	頭	頭(回)	頭(回)	円	
中 部 地 区	7	122,861	52,788	1,718	318	0	115	478,780	
北 部 地 区	5	35,010	11,641	1,447	275	0	126	617,190	

- ・事業区域加入頭数は、前年と比較して中部地区で微増し北部地区は減少した。診療件数は、中部地区家畜診療所管内・北部地区家畜診療所管内とともに増加した。

※主な事業区域

中部地区……前橋市・渋川市・榛東村・吉岡町
北部地区……沼田市・片品村・川場村・みなかみ町・昭和村

(3) 果樹共済関係

(引受)

年産	区分	項目	組員数	引受面積	標準収穫量	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
平成30年産	りんご	半相殺 減収総合一般方式	人	a	kg	円	円	円	円
		樹園地単位	-	-	-	-	-	-	-
		減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-
		半相殺 減収総合短縮方式	2	62.6	10,087	2,910,000	105,660	△ 17,434	88,226
	樹園地単位	-	-	-	-	-	-	-	-
	減収総合短縮方式	-	-	-	-	-	-	-	-
	半相殺 特定危険方式	121	4,787.7	1,113,520	430,110,000	6,417,229	△ 937,694	5,479,535	
	樹園地単位	1	62.3	12,425	3,760,000	56,550	2,406	58,956	
	特定危険方式	124	4,912.6	1,136,032	436,780,000	6,579,439	△ 952,722	5,626,717	
	小計	-	-	-	-	-	-	-	-
	ぶどう	-	-	-	-	-	-	-	-
	なし	半相殺 減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-
樹園地単位		-	-	-	-	-	-	-	-
減収総合一般方式		-	-	-	-	-	-	-	-
半相殺 減収総合短縮方式		3	81.9	17,598	5,750,000	48,275	△ 24,175	24,100	
樹園地単位		-	-	-	-	-	-	-	-
減収総合短縮方式		33	1,804.0	446,496	164,420,000	1,721,570	△ 942,066	779,504	
特定危険方式		-	-	-	-	-	-	-	-
樹園地単位		36	1,885.9	464,094	170,170,000	1,769,845	△ 966,241	803,604	
特定危険方式	160	6,798.5	1,600,126	606,950,000	8,349,284	△ 1,918,963	6,430,321		
合計	-	-	-	-	-	-	-	-	

△:納入保険料

- りんご
- ・前年対比 引受組員数:96.1%・引受面積:94.1%
 - ・引受概況 高齢化による廃園により減少した。
- なし
- ・前年対比 引受組員数97.3%・引受面積99.0%
 - ・引受概況 高齢化による廃園により減少した。

(被害)

区分	項目	被害組合員数	共済減収量	共済金	共済金 共済金額	備考
りんご	半相殺 減収総合一般方式	人	kg	円	%	
	樹園地単位	-	-	-	-	
	減収総合一般方式	-	-	-	-	
	半相殺	2	3,302	720,600	24.8	
	減収総合短縮方式	-	-	-	-	
	樹園地単位	-	-	-	-	
	減収総合短縮方式	-	-	-	-	
	半相殺	26	91,410	9,436,700	2.2	
	特定危険方式	1	10,882	416,000	11.1	
	特定危険方式	29	105,594	10,573,300	2.4	
小計	-	-	-	-	-	
なし	半相殺	-	-	-	-	
	減収総合一般方式	-	-	-	-	
	樹園地単位	-	-	-	-	
	減収総合一般方式	-	-	-	-	
	半相殺	1	1,228	310,000	5.4	
	減収総合短縮方式	-	-	-	-	
	樹園地単位	-	-	-	-	
	減収総合短縮方式	-	-	-	-	
	半相殺	被害なし				
	特定危険方式	-	-	-	-	
樹園地単位	-	-	-	-		
特定危険方式	1	1,228	310,000	0.2		
小計	30	106,822	10,883,300	1.8		
合計						

○りんご ・被害概況

- ・4月の降霜により開花期の花芽の損傷・凍死する被害が発生した。

- ・6月の降ひょうにより果実の損傷、裂傷となる被害が発生した。

- ・台風21、24号の影響により果実の落果及び傷果となる被害が発生した。

- ・7、8月にかけての高温少雨により、ハダニが大量発生したことで葉が落葉し、果実が成長せず落果及び果実肥大不良の被害が発生した。

○なし ・被害概況

(支 払)

区分	項目	支払月日	実支払共済金	共済金支払財源				特別積立金 充 当 額	その他	実支払共済金 共 済 金
				保険金	手持掛金 充 当 額	法定積立金 充 当 額	円			
りんご	半相殺 減収総合一般方式 樹園地単位	平成 年 月 日	円	-	-	-	-	-	-	-
	減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	半相殺 減収総合短縮方式 樹園地単位	31.03.08	720,600	556,875	88,226	37,308	38,191	0	100.0	
	減収総合短縮方式	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	半相殺 特定危険方式 樹園地単位	31.03.08	9,436,700	1,912,347	5,479,535	2,044,818	0	0	100.0	
	特定危険方式	31.03.08	416,000	296,568	58,956	59,220	1,256	0	100.0	
	小 計	31.03.08	10,573,300	2,765,790	5,626,717	2,141,346	39,447	0	100.0	
ぶ	ど う	-	-	-	-	-	-	-	-	
	半相殺	-	-	-	-	-	-	-	-	
なし	減収総合一般方式 樹園地単位	-	-	-	-	-	-	-	-	
	減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-	-	
	半相殺 減収総合短縮方式 樹園地単位	30.12.21	310,000	258,300	24,100	27,600	0	0	100.0	
	減収総合短縮方式	-	-	-	-	-	-	-	-	
	半相殺	被害なし	-	-	-	-	-	-	-	
	特定危険方式 樹園地単位	-	-	-	-	-	-	-	-	
	特定危険方式	-	-	-	-	-	-	-	-	
小 計	30.12.21	310,000	258,300	24,100	27,600	0	0	100.0		
合 計	30.12.21 31.03.08	10,883,300	3,024,090	5,650,817	2,168,946	39,447	0	100.0		

(損害防止)

りんご、なしの病害虫防除を目的として、1,355,019円を使用し、防除薬剤等を加入者に配布する損害防止事業を行った。
また、果樹園地を対象に、4点の土壌診断(経費3,024円)を行った。

(無事戻し金)

- りんご無事戻し金として、80人に対し1,487,677円の支払いを行った。
- なし無事戻し金として、25人に対し144,750円の支払いを行った。

(参考:引受)

年産	区分	項目	組合員数	引受面積	標準収穫量	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)	
			人	a	kg	円	円	円	円	
平成 31 年産	りんご	半相殺 減収総合一般方式 樹園地単位	-	-	-	-	-	-	-	
		減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-	
		半相殺 減収総合短縮方式 樹園地単位	2	58.5	9,662	2,880,000	57,542	△ 2,078	55,464	
		減収総合短縮方式	-	-	-	-	-	-	-	
		半相殺 特定危険方式	108	4,167.3	978,646	389,580,000	5,406,140	497,330	5,903,470	
		樹園地単位 特定危険方式	1	61.8	12,539	3,890,000	59,588	14,073	73,661	
		小計	111	4,287.6	1,000,847	396,350,000	5,523,270	509,325	6,032,595	
		ぶどう	-	-	-	-	-	-	-	-
		半相殺 減収総合一般方式 樹園地単位	-	-	-	-	-	-	-	-
		減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-	-
		半相殺 減収総合短縮方式 樹園地単位	3	73.2	15,774	5,150,000	106,162	△ 46,795	59,367	
		減収総合短縮方式	-	-	-	-	-	-	-	-
		なし	24	1,000.2	243,486	86,930,000	1,049,642	△ 436,882	612,760	
半相殺 特定危険方式 樹園地単位 特定危険方式	-	-	-	-	-	-	-	-		
小計	27	1,073.4	259,260	92,080,000	1,155,804	△ 483,677	672,127			
合計	138	5,361.0	1,260,107	488,430,000	6,679,074	25,648	6,704,722			

△:納入保険料

(4)畑作物共済(大豆)関係

(引受)

区分	項目	組合員数	引受面積	引受収量	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
一	筆 方 式	人 22	a 10,096.2	kg 94,218	円 14,155,859	円 121,129	円	円
半	相 殺 方 式	-	-	-	-	-	-	-
全	相 殺 方 式	3	977.0	10,929	1,407,099	47,197		
合	計	25	11,073.2	105,147	15,562,958	168,326	59,337	227,663

○前年対比 引受組合員数:100.0%・引受面積:94.7%

○引受概況 有資格者に引受推進を行い、新規引受が1件あったものの既存の加入者は休業により1件減になったため、前年対比100%となった。引受方式別では耕地単位に共済金が算出される一筆方式での加入が多く、面積比率で91.2%を占めている。

(被害)

区分	項目	被害組合員数	共済減収量	共済金	共済金 共済金額	備 考
一	筆 方 式	人 3	kg 4,232	円 1,207,984	% 8.5	
半	相 殺 方 式	-	-	-	-	
全	相 殺 方 式	1	2,586	318,078	22.6	
合	計	4	6,818	1,526,062	9.8	

○被害概況 7月の記録的な猛暑による生育不良の被害、8月27日の降ひょうによる被害、土壌湿潤害による生育不良・発芽不良の被害が発生した。

(支払)

区分	項目	支払月日	実支払共済金	共済金支払財源					実支払共済金 共済金
				保険金	手持掛金 充当額	法定積立金 充当額	特別積立金 充当額	その他	
一	筆方式	平成 年月日 31.3.15	円 1,207,984	円	円	円	円	円	%
半	相殺方式	-	-						
全	相殺方式	31.3.15	318,078						
	合計		1,526,062	812,449	227,663	485,950	0	0	100.0

(損害防止)

病害虫防除を目的として、総額473,346円を使用し、防除薬剤等を加入者に対し配布する損害防止事業を行った。

(5) 畑作物共済(蚕繭)関係

(引 受)

区分	項目	組合員数	箱数 (上段:引受掃立箱数) (下段:引受箱数)	引受収量	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
		人	箱	kg	円	円	円	円
春	蚕 繭	85	269.50 389.14	11,282	26,363,300	50,870	5,747	56,617
初	秋 蚕 繭	52	164.50 251.11	6,284	14,578,880	44,499	32,007	76,506
晩	秋 蚕 繭	83	282.75 435.01	10,823	25,109,360	156,292	48,905	205,197
合	計	延 実	716.75 1,075.26	28,389	66,051,540	251,661	86,659	338,320

※箱数の上段の引受掃立箱数とは3万粒の箱数で、下段の引受箱数とは引受掃立箱数を2万粒に換算した箱数である。

- 春蚕繭
 - 初秋蚕繭
 - 晩秋蚕繭
 - 引受概況
- 引受組合員数:92.4%・引受箱数:88.7%
 引受組合員数:94.5%・引受箱数:90.7%
 引受組合員数:92.2%・引受箱数:93.2%
 全蚕繭とも高齢化等により減少傾向にある。

(被 害)

区分	項目	被害組合員数	共済減収量	共済金	共済金 — 共済金額	備 考
		人	kg	円	%	
春	蚕 繭	3	93	215,760	0.8	
初	秋 蚕 繭	8	197	457,040	3.1	
晩	秋 蚕 繭	4	116	269,120	1.1	
合	計	延 実	406	941,920	1.4	

- 春蚕繭 •被害概況 生理病、細菌病の被害が発生した。
- 初秋蚕繭 •被害概況 高温による生理病、薬剤による生理病、膿病の被害が発生した。
- 晩秋蚕繭 •被害概況 硬化病、細菌病、生理病の被害が発生した。

(支払)

区分	項目	支払月日	実支払共済金	共済金支払財源				特別積立金 充当額	その他	実支払共済金 共済金
				保険金	手持掛金 充当額	法定積立金 充当額	円			
春	蚕繭	平成 年 月 日 30.8.21	円 215,760	円 0	円 56,617	円 159,143	円 0	円 0	円 0	100.0
初	秋蚕繭	30.11.7	457,040	141,470	76,506	239,064	0	0	0	100.0
晩	秋蚕繭	30.12.12	269,120	0	205,197	63,923	0	0	0	100.0

(損害防止)

養蚕経営の安定を目的に病害防除に506,042円を使用して、損害防止事業を行った。

(無事戻し金)

蚕繭共済無事戻し金として、23人に対し32,376円の支払いを行った。

(6) 園芸施設共済関係

(引 受)

施設区分	項目	組合員数	引受棟数	設置面積	共済価額	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
ガ	ラ	人	棟	a	千円	千円	円	円	円
ス	I 類	-	-	-	-	-	-	-	-
II 類		159	208	2,719.4	3,507,875	2,771,968	7,386,847	2,626,037	10,012,884
プラスチックハウス	I 類	1	1	1.0	180	144	460	320	780
II 類		2,145	11,503	24,266.3	4,946,811	3,931,251	51,731,305	△ 7,544,391	44,186,914
III 類		468	608	7,260.3	3,514,743	2,730,352	20,860,933	3,591,679	24,452,612
IV 類甲		295	423	4,368.5	3,129,017	2,441,495	13,043,298	3,093,127	16,136,425
IV 類乙		227	288	3,219.5	2,440,481	1,920,853	5,527,056	1,233,338	6,760,394
V 類		71	83	950.7	720,959	564,420	1,888,621	255,685	2,144,306
VI 類		189	3,014	7,383.3	937,405	748,534	5,633,309	2,240,667	7,873,976
VII 類		55	92	2,001.4	81,115	64,545	382,163	47,430	429,593
合 計		3,610	16,220	52,170.4	19,278,586	15,173,562	106,453,992	5,543,892	111,997,884

△:納入保険料

○前年対比 引受組合員数:99.4%・引受棟数:102.7%・引受面積:101.2%

○引受概況 有資格者名簿を整備し、戸別訪問による引受推進を行った。高齢化による廃業や規模縮小、一般損害保険への切替により前年と比べると組合員数はやや減少したが、引受棟数・引受面積は増加した。

(被害)

施設区分	項目	被害		損害の額 円	共済金							共済金 共済金額 %			
		組合員数	棟数		特定園芸施設 円	附帯施設 円	施設内 農作物 円	撤去費用 円	特定園芸施設 復旧費用 円	附帯施設 復旧費用 円	合計 円				
ガラス	I類	人	棟	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
"	II類	17	19	3,872,761	1,304,086	124,848	1,533,805	0	38,438	62,292			3,063,469		0.1
プラスチックハウス	I類	被害なし													
"	II類	163	384	36,721,485	25,958,699	90,230	3,150,653	0	0	0			29,199,582		0.7
"	III類	38	43	10,503,486	1,410,942	375,293	5,930,712	0	0	8,062			7,725,009		0.3
"	IV類甲	25	32	7,335,247	2,292,355	2,077,470	1,459,914	0	0	0			5,829,739		0.2
"	IV類乙	26	32	8,266,943	1,965,916	1,354,128	2,989,375	0	19,561	237,833			6,566,813		0.3
"	V類	5	8	1,465,279	345,667	0	801,011	0	0	0			1,146,678		0.2
"	VI類	67	492	27,641,811	20,342,901	0	1,695,006	0	32,791	0			22,070,698		2.9
"	VII類	8	9	808,245	646,166	0	0	0	0	0			646,166		1.0
合計		349	1,019	96,615,257	54,266,732	4,021,969	17,560,476	0	90,790	308,187			76,248,154		0.5

○被害概況 台風21・24号により沼田支所管内を中心に風害を受け、838棟に対して52,863,825円の共済金を支払った。これは、被害実績のうち棟数で82.2%、共済金で69.3%を占めた。病虫害では、主に東部のキュウリにおいてモザイク病や退緑黄化病等が発生した。
なお、平成29年度の被害に対し、平成30年度に共済金88,391円を支払っている。

(支払)

実支払共済金	共済金支払財源				実支払共済金 共済金 %
	保険金	手持掛金 充当額	法定積立金 充当額	特別積立金 充当額	
円	円	円	円	円	円
76,248,154	6,239,657	70,008,497	0	0	0
					100.0

(損害防止)

損害の未然防止と発生した被害の拡大を防ぐため、3,829,567円の損害防止事業費で粘着補虫シートやビニール補修用テープ等の損害防止用品を加入者に配布した。

(無事戻し金)

2,026人に対し25,948,287円の無事戻し金を支払った。

(7) 建物共済関係

(引受)
農家建物

区分	項目	引受棟数	共済金額		共済掛金		1棟当たり 平均共済金額	再共済掛金	再共済手数料
			千円	円	純共済掛金	賦課金			
総合共済		棟 10,368	99,184,860	円 152,547,000	円 69,074,228	円 9,566,441	円 91,396,803	円 24,347,734	
収容農産物Aタイプ									
収容農産物Bタイプ		棟 1	3,000	円 6,300	円 2,700	円 3,000,000	円 2,700	円 688	
火災共済		棟 91,703	1,052,794,400	円 502,285,401	円 410,119,555	円 11,480,479	円 273,170,604	円 110,468,978	
合計		棟 102,072	1,151,982,260	円 654,838,701	円 479,196,483	円 11,285,977	円 364,570,107	円 134,817,400	

○前年対比 引受棟数:96.3%・共済金額:96.4%

○引受概況 棟数及び共済金額がそれぞれ前年対比約4%の減少となった。

・総合共済は、近年自然災害が多発していることで火災共済から切替える加入者や新規の加入者もおり、棟数で前年対比107.4%と増加した。

(事故)
農家建物

区分	項目	事故棟数	共済金額		支払共済金(円)		再共済金	被害率 (ロ)/(イ)	備考
			(イ)	千円	火災等	風水害等			
総合共済		棟 237	2,604,000	千円 2,604,000	円 49,824,906	円 46,267,753	円 28,827,694	% 3.7	
収容農産物		棟 -	-	-	-	-	-	-	
火災共済		棟 290	4,270,400	円 433,989,423	-	-	円 130,196,693	円 10.2	
合計		棟 527	6,874,400	円 483,814,329	円 46,267,753	円 159,024,387	円 7.7		

○被害概況 次頁の原因別事故発生状況の支払共済金は、前年対比で火災が134.7%、拡張担保が133.5%、自然災害が147.9%とそれぞれ増加した。

(原因別事故発生状況)
農家建物

事故原因別	事故棟数	共済金額 (イ)	支払共済金 (ロ)	再共済金	被害率 (ロ)/(イ)	備 考
類焼	棟 13	千円 180,200	円 118,059,679	円 35,417,899	% 65.5	
電気配線等の漏電	12	96,100	59,482,937	17,844,879	61.9	
ストーブ関係の火	5	42,100	43,078,186	12,923,453	102.3	
風呂釜・ボイラー	5	49,000	43,083,355	12,925,004	87.9	
その他	24	322,500	164,823,028	49,446,897	51.1	
火災計	59	689,900	428,527,185	128,558,132	62.1	
落雷	215	3,181,300	38,035,911	11,410,670	1.2	
給排水設備	20	366,300	12,274,347	3,682,294	3.4	
車両の飛び込み等	16	216,500	3,437,244	1,031,167	1.6	
盗難によるき損・汚損	20	209,400	982,163	294,642	0.5	
物体の落下・飛来等	13	231,200	557,479	167,239	0.2	
拡張担保計	284	4,204,700	55,287,144	16,586,012	1.3	
自然災害	184	1,979,800	46,267,753	13,880,243	2.3	
収容農産物	0	0	0	0		
合 計	527	6,874,400	530,082,082	159,024,387	7.7	